

第22回〈ケア〉を考える会-岡山

■日時：**2015年12月23日(水) 14:00~16:30**

■会場：**川崎医療福祉大学 本館6階 6001 演習室 (定員35名)**

http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/access/index.php/*

※建物の1階(防災センター)から備え付けのスリッパに履き替えてお上がり下さい。

エレベーターで6階へ行きますと、降りた正面に案内標識があります。

駐車場は、福祉大学の職員・学生駐車場(病院とは道をはさんで北側)をご利用ください(1時間100円)。

■会費：無料 どなたでも参加できます。お気軽にご参加ください。



■テーマ：**「ベッドサイドからの哲学」**

鷺田清一・徳永進 著 『ケアの宛先』(雲母書房)

P.37~P.95 を読んで、話し合います。

「ケアの宛先」/ノート ① …… (第21回のノートです)

▼人間も他の生命体も古い、病み、死を迎える。去る、全てが去る。生命共通の摂理。

去る時、去る生命体の横にいて、何かできることがあるなら、手を差し出したり、支えたり、力になりたい、と多くの人が思う。ケアの心って誰の中にもある。ケアの種と呼んでもいいかもしれない。(……)

ケアの種を持って、ケアを職業の中心とする人たちは臨床現場に立つ。(徳永/2頁)

▼人生でもそうだと思うけど、仕事においてだって、いまこの時間をあなたにあげるから、その時間のなかで迷惑かけてもいいよ。この時間はあなたのためだけに使うよ、と言うのが「ケア」ということの一環根っこにある精神だと思うんです。だから、自分も迷惑をかけるかもしれないし、迷惑をかけられると耐えるのが難しいかもしれないけど、そういう錯綜した感情のなかで、でも自分はいま、ここにあなたと共にいますと伝える。(鷺田/16頁)

▼自分が何かの「宛先」になっているときに、自分の心を自分で感じられるんだと思うんです。(……)誰かが自分のことを心配してくれている、それを感じたときに同時に心を感じるんじゃないか。(……)何か他のもの、あるいは他の人が自分に向けて働きかけてくれているということを感じたときに、初めて人は自分に心とか、魂があるということを感じるんじゃないかと思う。(……)。「宛先」っていうのを別の言い方でいうと、「大事にしよう」でもいいと思う。(鷺田/26頁) 自尊心って自分を大事に思う心だけど、これは人から大事にしようことで生まれるものなんですね。(鷺田/27頁)

■呼びかけ人

大賀由花(赤磐医師会病院/透析療法指導看護師)、河合清志(社会福祉士)、小林真美、清水昭雄(管理栄養士)、田中順子(川崎医療福祉大学リハビリテーション学科/作業療法士)、林道也(社会福祉士)、平松邦夫(社会福祉士)、松川絵里(カフェフィロ代表/大阪大学 CSCD 特任研究員)

■参加申し込み・問い合わせ：

884michiya@gmail.com 090-5366-1497 (林)

■懇親会：終了後に、会場近くの居酒屋で懇親会を開きます(希望者)

※ ホームページもご覧ください ⇒ <http://okayama-care.jimdo.com/>



「〈ケア〉を考える会-岡山」とは……

▼岡山(倉敷)で、〈ケア〉について学び考えています。

〈ケア〉といえば、「看護」「介護」「支援」「世話」などが頭に浮かびます。超高齢社会を生きる私たちにとって、切実な課題の一つです。そして、〈ケア〉は、もっと広く捉えることもできます。たとえば広井良典氏は、ケアを「人と人との間の『関係性』という意味に理解してみたい」と述べ、さらに、個人がコミュニティや自然などとながっていくような方向でもケアを考えます。「『ケアの哲学』とでもいうようなものが必要」とも言っています。また、鷺田清一氏は「臨床哲学」の重要テーマの一つに「ケア論」を置き、「ケア」の奥深さをさまざまに説いています。それに、「死生観」、「生」と「死」について、リビングウィル、終末期医療も、〈ケア〉を抜きには考えられません。

この会では、〈ケア〉について、身近なところから理念的なものまで、そして、狭い意味から広い意味まで、幅広く深く考えていきます。

▼この会の参加者は、医療・看護・介護・福祉・教育などの現場、または地域や家庭などで〈ケア〉に関わっている方、大学や学校で〈ケア〉の教育・研究に携わる方や学んでいる方、さらに、その他、〈ケア〉に関心や関係のある方などです。〈ケア〉に関わる人たちが学び交流することで、明日からの力を得る「場」となることを願います。この会は参加者の「つながり」を大切にします。